

造影 MRI 検査時のガドリニウム造影剤に関する説明

今回実施する MRI 検査は造影剤という薬を注射します。造影剤の投与によって、病変の有無、性質、範囲といったことをより正確に診断することが可能になります。造影剤は安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こる可能性があります。

造影剤の副作用・危険性について

- 1) **軽い副作用**：主に吐気 0.29%、嘔吐 0.13%、熱感 0.06%、麻疹 0.05%などがあります。治療は必要としません。
- 2) **重い副作用**：呼吸困難、意識障害、血圧低下などがあります。治療が必要となり、後遺症が残る可能性があります。そのために入院が必要なこともあります。このような副作用の起こる確率は約 1 万人に対し 5 人以下、0.05%以下です。病状、体質によっては 1 0 0 万人に対し 1 人の割合で (0.0001%) で死亡する可能性があります。
- 3) **遅発性副作用**：ほとんどの副作用は検査中に起こりますが、まれに数時間から数日後に現れることがあります。通常は軽症で治療を必要としませんが、症状がひどい場合には MRI 検査室まで連絡をしてください。
- 4) **血管外漏出**：造影剤を注射する際、まれに血管外に造影剤がもれて注射部がはれて痛みを伴うことがあります。通常は時間がたてば自然に吸収されます。

以下の既往がある方は、造影剤の副作用が生じる可能性が高いため、造影検査を行わないこともあります。下記に該当する方は、医師に相談のうえ検査を受けて下さい。

ガドリニウム造影剤に対し、過敏症の既往のある方
気管支喘息、薬剤過敏症などアレルギー性疾患のある方
肝機能障害、腎機能障害のある方
人工透析をされている方

水分摂取制限のない方は検査終了後に水分を多めにとり、造影剤を排泄するようにお願いします。